

日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

The Labour Year Book of Japan special ed.

第一編 労働者運動

第二章 戦時下の労働争議

第二節 主要な労働争議

戦時中の注目すべき労働争議としては、一九四二年、共産主義者の指導した海軍管理工場磯貝鉄工所の闘争、日立製作所亀有工場労働者のサボタージュ戦術による三割生産減(小林五郎「特高警察秘録」参照)、同亀戸工場労働者が「待遇改善」を要求して組織した争議、また一九四三年、日本化薬岩見沢工場白金職場の「待遇改善」要求ストライキ(「日本資本主義講座」第七巻、一、参照)などがある。

つぎに、比較的詳細な記録が残っている一九四二年の労働争議について、若干の実例を紹介しておこう。

A、川崎重工業株式会社製鉄工場の場合

「社会運動の状況」によれば、「神戸市葺合区脇浜町所在川崎重工業株式会社工場従業員は予てより会社の賃金制度に不満を有し居りたるが、本年[一九四二年]八月八日頃同工場吉村一成・橋本音八が主謀者となり別記の如き歎願書を作成して、待遇改善要求を策し一般工員の署名調印勧誘中なるを兵庫県特高課に於て八月二十六日探知し、夫々取締を為すと共に争議の発生を未然に防止することを得たるが歎願書には既に一七一名の署名調印を終了し居たり」という。

歎願書

支那事変に続き大東亜戦争勃発以来陸海空に皇軍の向う処敵なく其の赫々たる大戦果は元より御稜威の然らしむる所であります。皇軍将兵の方々は御国の為めに、一切を抛って軍旗の下に官位も、身分も、職業も、妻子も、富も、名譽も総ての区別を取り除きたる赤裸々の一国民となり全生命を打込んで戦った尊い結果であります。依って私共も皇軍将兵の方々の心を心として、産業戦士として之の戦果に依りて一切を顧みず、一意専心職域に奉公し、愈々其の責任の重大を充分に自覚痛感致して居ります。斯る場合自己の職務上聊かの疑念とか雑念とかがあってはならないのは勿論であります。仕事に対しては無我の心境にて全精魂を打込んで邁進しなければならないのであります。遺憾ながら、現在の私共は、家庭生活上聊か不安を感じて居る事実を申し上げ茲に賢明なる課長殿の御同情ある御理解と御処置を仰ぎ度而して私共の家庭生活上の不安を除き所謂後顧の憂ひなく思ふ存分に産業戦士たる本来の使命を果さして頂度謹んで懇願申上げる次第であります。

B 日光電気精銅所の場合

「社会運動の状況」によれば、「栃木県上都賀郡日光町所在古河工業株式会社日光電気精銅所一部徴用工員に在りては会社側の待遇劣悪なりとして歎願書を作成、約千五百名署名調印を取纏め賃金値上、労働時間の短縮等に関し改善方歎願を為した」という。その経過を、警察の記録から引用しておく。

製鉄係工員高橋卯一郎(二十八才)等は会社側の待遇に不満を有し何等かの方法により之が改善実現方要望し居りたる処、阿部清一(二十八才)、製鉄工江原武男、電気工飯塚俊平(二十三才)、研究工似内謹次郎(二十六才)、製鉄工金井守(二十九才)、配線工加藤保寿(三十二才)等と共に寄々具体策講究中なりしが(一九四二年)九月三日午後四時頃前記加藤保寿方に同志相会し種々協議したる結果歎願書を作成し工員全部の署名を求めたる上事業主に提示すること、之が歎願書は加藤保寿が起草すること、等を決定、午後六時半

頃解散したるが其の後同月七日、日光町荒沢地内大日堂附近山林中に会合し、加藤保寿の作成せる歎願書の内容に付検討を加へ之を承認したる上各職場長を通じ口頭を以て賛成を求むること、調印取纏の上日光電気精銅所長に歎願し容れられざるときは厚生大臣に歎願すべきに付、阿部清一は上京し面接の可否を調査すること、等申合せ解散、即日阿部清一は上京したるが同月十一日には各出勤後所属職場の組長に事情を明かにし諒解を求めたる処裏面的応援を為すべき旨の承諾を得たり。

仍て同月十三日午後四時半頃日光町清滝地内大谷川岩鼻河原に前記六名の者会合し陳情方に付協議したる結果工手会長大貫文三郎を通じ精銅所長に歎願することとして散会したり。

翌十四日午後九時頃代表として江原武男・高橋卯一郎・似内謹次郎の三名は工手会長大貫文三郎を訪問、前記歎願書を提示し上部への取次方を依頼したる処、何等確答なく要領を得ずして別れ、午後再度訪問したるが不在なりしたため午後七時頃所長岸野佐吉の居宅を訪問歎願書を提示陳情したる処、岸野所長は善処すべきも即答は出来ぬ故、明日大貫工手会長を通じ順序を踏み来るべし、とて一応帰宅せしめたり。

九月十五日に至り曩に上京中なりし阿部清一高橋卯一郎に対し横浜郵便局気付にて「大臣に面会可能至急」なる電報寄越ありたるため十五、十六日の両日は各職場毎に工員に対し参加署名方を勧誘し約千五百名の署名賛成者を得るに至りたるを所轄日光警察署に於て探知し、九月二十六日主謀者と目さるる者十数名を検束し取調を為したるが、格別思想関係等認められざるを以て嚴重戒飭[ちよく]を加へ置きたり。

C、日立製作所亀戸工場の場合

「社会運動の状況」によれば、「東京市城東区亀戸町八丁目所在株式会社日立製作所亀戸工場第二電機課塗装係従業員十二名及巻線係従業員一名計十三名は待遇改善要求に対する会社側の態度に何等誠意の認むべきものなしと憤慨し、対抗手段として共産主義者指導の下に製品の手抜を為して不良品を作成せしめた」という。その経過を、警察の記録から引用しておく。

(一) 争議発生原因及経過

1 遠 因

工場に在りては昨年[一九四二年]十月二十六日事業主従業員間の意思疏通等を図る為産報総懇談会(伍長以上約三〇〇名会同)を開催したるが、其の席上電圧課伍長山本英一は賃金の値上問題を提案して会社側に要望したり。

然るに会社側に在りては本問題に付ては今後可能なる範囲内に於て考究善処すべしと回答したるも何等具体的発表なく其の儘推移せり。

2 近 因

右懇談会に於ける山本英一の発言及会社側の一蹴的態度を聞知したる第二電機課塗装係工員真田一昌当三十年は予てより会社側の態度に種々不満を有せるものなりしを以て、好機至れりと為し、賃上其の他待遇改善要求を貫徹せんには先づ産報組織を利用する大衆的組織運動に優れるものなし、同一職場内の伍長大竹五郎外三伍長と協議の上十一月十三日昼食時間を利用して、同職場内乾燥室に塗装係全員(男)の会同を求めて懇談会を開催し左の要求事項を決議せり。

(イ) 請負単価の引上(五割以上)

(ロ) 賞与不平等廃止

(ハ) 昇給の不平等廃止

(ニ) 永年勤続者の優遇

(ホ) 会社は吾々の生活を保証すべきこと

而して右決議するや組長佐久間基策の出席を求め、本決議事項を速に会社側に上通して要求の貫徹に付尽力方を依頼すると共に、若し会社側に於て本要求事項を容れざる場合は各自作業上手抜を為し、以て飽迄会社側に対抗して其の貫徹を期するものなりとて強硬態度を表明せり。

3 経過

前述の通達に要求の上通を促し其の回答を待機し居りたる塗装係全員(男)は其の後会社側より何等回答なく、誠意の認むべきものなきに憤慨し十一月十五日再び乾燥室に於て懇談会を開催し、席上伍長大竹五郎は第二電機課藤沢課員より示されたる会社側の態度(会社側に於ては永年勤続者の優遇方法は考慮するも其の他の事項は拒否)を一同に発表し次で事茲に到達せる以上は再要求の必要を認めざるを以て、各自行動に依りて争議する以外方法なしと、曩の協議に基き即時各自作業上手抜の方法を実行することを申合せ散会せり。

他方真田一昌と特に親交あり常に会社側に対し種々不平不満を有せる第二電機課巻線係工員鈴木敏夫当二十九年は塗装係の懇談会を傍聴して大に之に共鳴し、自己も塗装係員の争議に協力すべく手抜の実行を決意したり。

4 手抜作業状況

塗装係工員真田一昌(当三十年)電動機附属品K型「スエッチカバー」の塗装工程として黒色「エナメル」塗装前刷毛にて附着塵芥を払い落すべきものなるに十一月十三日頃より之が手抜を為し、以て左の不良品を製作せり。

(イ) K型「スエッチカバー」塗装不良 三四箇

(ロ) K型「スエッチカバー」の塗装不良なるも辛うじて使用し得る程度のもの 三八八箇

塗装係伍長小杉幸雄(当三十七年)十一月十五日頃より磨き作業上の手抜を為したるもの

(イ) ハウジング 二五〇箇

(ロ) ペース 二〇〇枚

塗装係工員杉本省吾(当三十年)十一月十五日頃より同二十五日頃迄の間に於て三回塗装すべきに不拘手抜を為して二回塗装せるもの 約一〇〇箇

其の他塗装工員(男)は検査嚴重なる為確然たる手抜を為すこと能はざりしが怠業に依りて要求の貫徹を企図せり。

巻線係工員鈴木敏夫(当二十九年)は「ローター」接属線たる中性環製作に従事し居るものなるが手抜き(銅板に穴を開け鋏留を三箇所なすべき処一箇所のみ鋏留す)をなし以て四五〇台分の不良品を製作せり。

(二) 警察取締及結果

十一月二十六日前記事実を探知せる所轄亀戸警察署に在りては、関係者中首謀者六名を検束他は不拘束の儘、嚴重取調を為し以て時局下生産阻害の不心得を厳諭したところ、何れも改心を誓い、且要求事項の撤回を表明して十二月二十一日解決せり。

(三) 思想関係

右争議発生に関し警視庁に在りては、左翼分子の介在し居るを探知したるを以て関係者たる塗装工、真田一昌(三一)、巻線工、鈴木敏夫(三〇)を検挙したるが右二名は数年前より同工場内に共産主義グループを結成し、従業員の左翼化に努め来りたるものにして、右争議も其の実践活動の一端として真田が中心となりて指導しつつありたること判明せり。

日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

発行 1965年10月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
